

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	14-016	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption over time and risk of death: a systematic review and meta-analysis. 飲酒継続と死亡リスク：システマティックレビューとメタ分析		
執筆者		
Jayasekara H, English DR, Room R, MacInnis RJ.		
掲載誌		
Am J Epidemiol. 2014 May 1;179(9):1049-59. doi: 10.1093/aje/kwu028. Review.		
キーワード		PMID
飲酒の継続、メタ分析、死亡、システマティックレビュー		24670372
要 旨		
背景： 飲酒と死亡との関連について多くの検討がなされてきたが、飲酒の評価についてはベースライン時のみ（特に調査前年のみ）としていることが多く、ある一定期間の飲酒の継続と死亡リスクとを検討した報告は少なく、その関連について検討したシステマティックレビューはない。		
方法： Medline, Web of Science, CINAHL Plus, および Scopus databases を用いて、2012年8月までに公開された文献についてレビューを行い、一定期間の飲酒の継続について定量的に評価し、かつ死亡との関連を検討した文献を組み入れた。		
結果： 1991年から2010年までに公開された9つのコホート研究（合計62,950人、10,490死亡）が組み入れ基準を満たしていた。男性については、random-effects modelを用いて分析した結果、非飲酒と比較して、一定期間における軽度飲酒の継続は全死亡リスク低減と弱い関連があり、一方、40g/日以上 of 飲酒継続は全死亡リスク増加と関連していた（P for nonlinearity 0.02）。相対リスクは、非飲酒者と比較すると、1-29g/日の飲酒継続者では0.90（95%信頼区間 0.81-0.99）、30-59g/日の飲酒継続者では1.19（95%信頼区間 0.89-1.58）、そして60g/日以上 of 飲酒継続者では1.52（95%信頼区間 0.78-2.98）であった。研究間で中等度の不均一性を確認したが、公開バイアスは認めなかった。女性に関する研究は極度に少ないため分析できなかった。		
結語： メタ分析の結果、男性においてある一定期間の飲酒の継続と全死亡リスクとの関連は曲線的であったが、飲酒量の評価方法や結果の検討方法について研究間で大きな相違が見られた。		